

令和5年度 第1回市川市少年センター運営協議会 会議録（発言要点）

- 【日時】 令和5年7月26日（水）15:00～16:15
【場所】 生涯学習センター 第3研修室
【出席者】 川俣会長、三部副会長、白石委員、保田委員、田野委員代理松嶋委員、
林委員代理高知尾委員、岸委員
朝倉委員、稲垣委員、三浦委員、富田委員、福田委員
（教育委員会事務局）
横田教育センター所長、青木少年センター所長、程田副主幹、奈良坂主査

【運営協議会】

- 1 開会
- 2 市川市教育委員会 挨拶 [横田教育センター所長]
- 3 出席者自己紹介
- 4 会長挨拶 [川俣会長]
- 5 報告 [青木少年センター所長]

最近の補導、相談活動の状況（令和4年4月～令和5年3月）は、お手元の冊子「令和4年版少年センター活動報告」でかえさせていただきます。ご覧ください。補導少年の行為では、近年は喫煙や怠学はあまりなく、危険な遊びや登下校の注意等が多くなっており、補導状況はコロナ禍が明けて、増加傾向にあります。相談受付状況は、家庭生活、健康、不登校の順に多くなっており、電話の対象は、小学生から19歳までですが、本人からの相談も4分の1程度あります。最近、性の悩み、心と体の違和感なども出てきております。

次に不審者情報の状況です。令和5年度4月～6月のデータでは、すでに37件が上がっております。最近では、盗撮の被害が増えており、露出の被害は減少傾向にあります。

リーフレットの違いは、左上の対象学年があり、表現が少しずつ違っています。小学生向けには、やさしい言葉に変えております。特徴としては、LINEを使ってのSNS相談を実施していることです。対象は小学5年生～中学3年生です。普段は月木の17時～22時までとなっておりますが、夏休み終了前等に集中相談機関を設けております。

6 市川警察より最近の少年の補導状況等について

- ①市川警察署 生活安全課少年係長 [松嶋委員]

最近の傾向として「深夜の公園で騒いでいる、スケートボードで遊んでいる」等の補導をしております。小学生では万引きが割合として多いです。高校生では、盗んできたバイクを市内で乗っている他市の生徒がおりました。未成年者の行方不明者は、重大事件に発展しやすいので、注意しております。

- ②行徳警察署 生活安全課少年係長 [高知尾委員]

署としての補導件数は多くはありません。傾向として、最近は「たばこ」が多くなっております。少年の特性の一つである「集団で騒ぐ」様子が公園で見られることが多いです。SNS で知り合った子ども同士で騒いでいるため、補導しても、相手のアカウント名しか知らず、情報がわからないことが多いです。最後に自転車に物を入れておいて、遊びにいてしまい、物を取られてしまう事例が多いです。警戒はしておりますが、注意をしてほしいです。

7 協 議

「インターネット犯罪に巻き込まれないために」 [事務局 奈良坂]

実績：昨年度の実績について報告いたします。3月末の時点で、41校、76コマ、7191人に実施しました。少年補導員連絡協議会や家庭教育学級等、保護者や地域の方への実践も含まれます。

現状：別紙をご覧ください。小学校6年生の卒業と同時にスマホを購入してもらい、中学生の95%が持っているという状況を示す調査データがあります。

市川市少年センターとしては、警視庁の SNS 事件数のデータ等をもとに SNS トラブル防止教室を行っております。今年度は、4月から夏季休業前までに22校の依頼がありました。学校側からも SNS トラブルを未然に防ぎたいという要望がきております。子ども達の実態にあったものを行いたいため、事前のアンケートを実施しております。児童生徒の心配事としては、小学生は使いすぎや悪口があり、中学生では知らない人からの連絡、仲間外れや悪口があるため、それを中心に授業を行っております。またネットパトロールを市内小中特別支援学校の児童生徒を対象として、危険度を3段階のレベルに分けて実施しております。ネットリテラシーの向上に伴い、公開範囲の制限が行われているため、LINE や Twitter をこちらにも調べられない状況です。しかしながら、限定公開の範囲内でもトラブルは起こっております。

(質問：川俣議長) 中1で90%以上の所有率に驚いている。小学校でも65%。学校の人間関係では SNS 上のグループはずしや仲間外れが多くみられています。小学校段階での SNS 指導は、どのようになっていますか？

(回答：奈良坂) 例として、遊ぶ約束をして、「なんでくるの？」があります。本当は交通手段を尋ねているのに、責められたと勘違いをして、グループ外しにつながる。そういうことがないように注意をしています。また「写真を勝手に許可なくまわしてしまった」など事例に沿った内容の指導をしています。現実世界でやってはいけないことはネットの世界でもやってはいけないという説明をしております。

(川俣議長) 今のように具体的に指導してもらって助かっております。

(白石委員) 小学校では、このようなことに敏感になってきておりますが、事例としてはまだ少ないです。

(保田委員) 学校では、ネットで「悪口を書いたよ」と人に見せてしまうことがあります。また、誤解が生じると解消しようと努力することはさけるが、陰で文句を言うというような傾向が強いです。ネットで知り合った仲間なら、いつでも関係を切れるということにつながりをもっている面があります。また、写真を全然関係ない人に勝手に使われている事例もある。人間関係が希薄になっているように感じる。

(富田委員) 夏休みに入り、こどもたちもテンションがあがっているようですが、市川市でも詐欺の被害には会っていませんか？

(松嶋委員) 出し子はかつていたが、詐欺グループが解散したので、今年に入ってから、挙がっていません。

(富田委員) 夏はテンションが上がってしまって、出し子、受け子、闇バイトに手をすることが予想されるので、小学校段階のうちから、詐欺や薬物乱用など徹底的に指導してもらいたい。

(朝倉委員) 我々、保護司会では、「社会を明るくする運動」、犯罪や非行のない明るい社会を作ろうとやっております。新しい事業として作文コンクールを始めました。昨年は公立・私立11校の参加により324件集まりまして、第一中学校の生徒さんは千葉県中学校校長賞を受賞しました。今、メディアパークの一階に展示されている塗り絵も9つの保育園・幼稚園に参加してもらいました。子どもたちが小さい時から、犯罪予防の感覚を身に付けてもらえるよう取り組んでいます。保護司の役割として、犯罪非行からの更生がありますが、8月7日に「第1回いちかわ市民のつどい」が文化会館小ホールであります。社会を明るくする運動の一貫のひとつで市長も来られます。娯楽を含んだ活動として、落語や警察音楽隊の出演もあります。その中で保護司の役割も理解してもらいたいと思っております。

(三部副議長) 少年補導員としても県下一斉パトロールを今後実施して啓発していきます。

(岸委員) 奈良坂さんの「なんでくるの？」は字面だけだとイントネーションを含んでおらず、(お前いらねーよ)の意味にとられてしまう。肯定的なのか、否定的なのか、伝わらないので、ずれが生じてしまう。言葉を重ねる必要がある。またSNSは、順番がくるまで、発言しにくい。この会話のずれをどんな意味でいったのか？気持ちの確認をするためにずれをどう修正していくかが問題。先ほどの発

言にあった。ずれの解消をめんどうくさく感じて、「おまえくんじゃねーよ」というずれが拡大していく。ファクトチェックがとても大事。ずれのチェック、ファクトチェックをどうやるかという指導が大事になってくる。

(奈良坂) 文字には、表情がないということも伝えていきます。ずれが生じたときは、電話するように対応例を紹介しています。電話が無理なら会って話すことが大事と話しています。

(岸委員) そういった事例集をつくるのもいいですね。コロナ禍で ZOOM が流行りましたがどこまで有用かチェックをする必要がある。

8 その他

事務局より

- ①会議録や委員名簿のホームページ公表について
- ②次回開催予定 令和6年7月

9 閉 会